



国土交通

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

2013.2-3 No.119



- 安心・安全
- 海洋
- 河川
- 環境
- 観光
- 官庁営繕
- 官民協働
- 気象
- 航空
- 港湾
- 国際
- 建設・不動産
- 自動車
- 住宅・建築
- 船舶
- 地図・測量
- 鉄道
- 土地
- 道路
- 防災
- 北海道開発
- まちづくり

娘との、いまの時間を大切にしよう。



POSITIVE OFF



ポジティブ・オフに関する詳しい情報はこち
www.mlit.go.jp/kankochou/positive-off/

特集

未来につなぐ 環境まちづくり



国土交通省は、まち・住まい・交通の環境負荷を減らし、水と緑を創出して人と環境に優しい社会を創るためにさまざまな政策を行っています。今号では、市民、大学、企業及び行政の連携により次世代環境都市を目指す千葉県柏市や下水道資源のリサイクルと革新的な下水道技術の実証に取り組む兵庫県神戸市の事例をはじめ、平成24年12月に施行されたエコまち法、次世代モビリティなど、未来に向けて「環境まちづくり」を推進するための取り組みをお伝えします。

CONTENTS

特集
未来につなぐ環境まちづくり

暮らしと地域から始まる
21世紀型社会づくり……4

柏の葉国際キャンパスタウン
環境と暮らしを
「かしこく」つなぐ柏の葉……6

次世代再生可能エネルギー
人類が存在する限り枯渇しない
バイオガスエネルギー……8

都市機能の集約促進
「エコまち法」で
コンパクトな都市に……10

次世代モビリティ
人と車が実現する
新たなライフスタイル……11

業務密着ルポシリーズ
現場力……12
中国地方整備局 岡山營繕事務所

シリーズ 探訪・探究
訪れたいまち……16
香川県三豊市詫間町栗島

教えて国土交通省!……20
大地を見つめる国土地理院……21
道の駅……22
MLIT NAVI……23

國 土 交 通
2013.2-3

MLIT
Ministry of Land, Infrastructure,
Transport and Tourism

■平成25年1月発行 No.119(隔月発行)
■編集発行/国土交通省 大臣官房広報課
〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL.03-5253-8111(代表)
ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>
■編集協力/株式会社文化工房

本誌の掲載文で、意見を述べた部分については、執筆者の個人的見解であることをお断りします。
また、本文記載記事の無断転載を禁じます。

暮らしと地域から始まる 21世紀型社会づくり

震災・原発事故後のエネルギー問題、地球温暖化、生物多様性の損失など、環境をめぐる問題が関心を集めています。国土交通省はさまざまな政策を通じて、コンパクトで人や地球環境に優しいまちづくり、地域づくりを行い、都市機能と豊かな自然環境が調和する21世紀型社会の実現を目指します。

転換期を迎えた環境政策

東日本大震災と原発事故を契機として、エネルギー問題を始めとする環境政策に高い関心が寄せられています。世界的にみても、新興国の経済成長や人口増大を受けて、地球温暖化、廃棄物問題、^A生物多様性の損失といった環境問題はますます深刻化しています。京都議定書目標達成計画をもとに着実に温室効果ガスの排出削減に取り組み、環境技術面においても世界トップクラスの先進国として国際貢献に期待が寄せられる日本。

国内では少子高齢化が進み、人口減少に伴う社会構造の変化や厳しい財政状況の中で、かけがえのない自然を守り、人々の暮らしを支える豊かな国土を次の世代へと受け継いでいくために、今、何をすべきか。それは、国全体として取り組んでいかなければならない大きな課題といえます。

まち、住まい、交通の 創・蓄・省エネ化

日本のエネルギー消費量の内訳は、自動車・船舶など運輸部門が24%、商業・サービス・事務所など業務部門が13%、家庭部門が16%（平成22年度）。つまり総消費量の約2分の1が、国土交通省の政策分野に関連します。

もつともエネルギーを消費するのは、人やモノの移動です。国土交通省では

「都市の低炭素化の促進に関する法律」などを通じて、^B都市機能をコンパクトに集約化すると同時に、^C電車やバスなど公共交通の利用を促進し、地域特性に応じた低炭素まちづくりを進めています。住まいでは、「ゼロエネ住宅・省エネ住宅」の普及に取り組んでいます。建物の断熱性能の向上や照明・空調・給湯器などの高効率化による「省エネ」に加え、太陽光発電などでエネルギーをつくりだす「創エネ」を採用することで、電力・ガスなどのエネルギー消費を削減します。さらに省エネと創エネにより年間でエネルギー消費量をプラスマイナス「ゼロ」にする高機能な住宅を目指します。

交通では、電気自動車などの次世代自動車の普及支援、渋滞緩和のための次世代ITS（高度道路交通システム）及び、モーダルシフトなどによる物流の低炭素化を推進しています。鉄道駅や港湾での再生可能エネルギー利用、省エネ設備・蓄電池の導入、^D鉄道車両や船舶など輸送モード毎の「省エネ化」も推進しています。

一方で洋上風力発電や下水熱・汚泥エネルギー利用の普及促進、小水力発電に係る規制緩和に取り組み、クリーンで持続可能な「次世代再生可能エネルギー」の開発を進めています。

現場力・総合力を生かして

「まち・住まい・交通」の環境負荷を減らし、「水と緑の環境」を創出する政策は、国民一人ひとりの暮らしと未来に直結しています。現場力・総合力を生かして、他省庁や自治体、民間事業者とも連携を深めながら、世界のモデルとなるような環境まちづくりをしていきます。



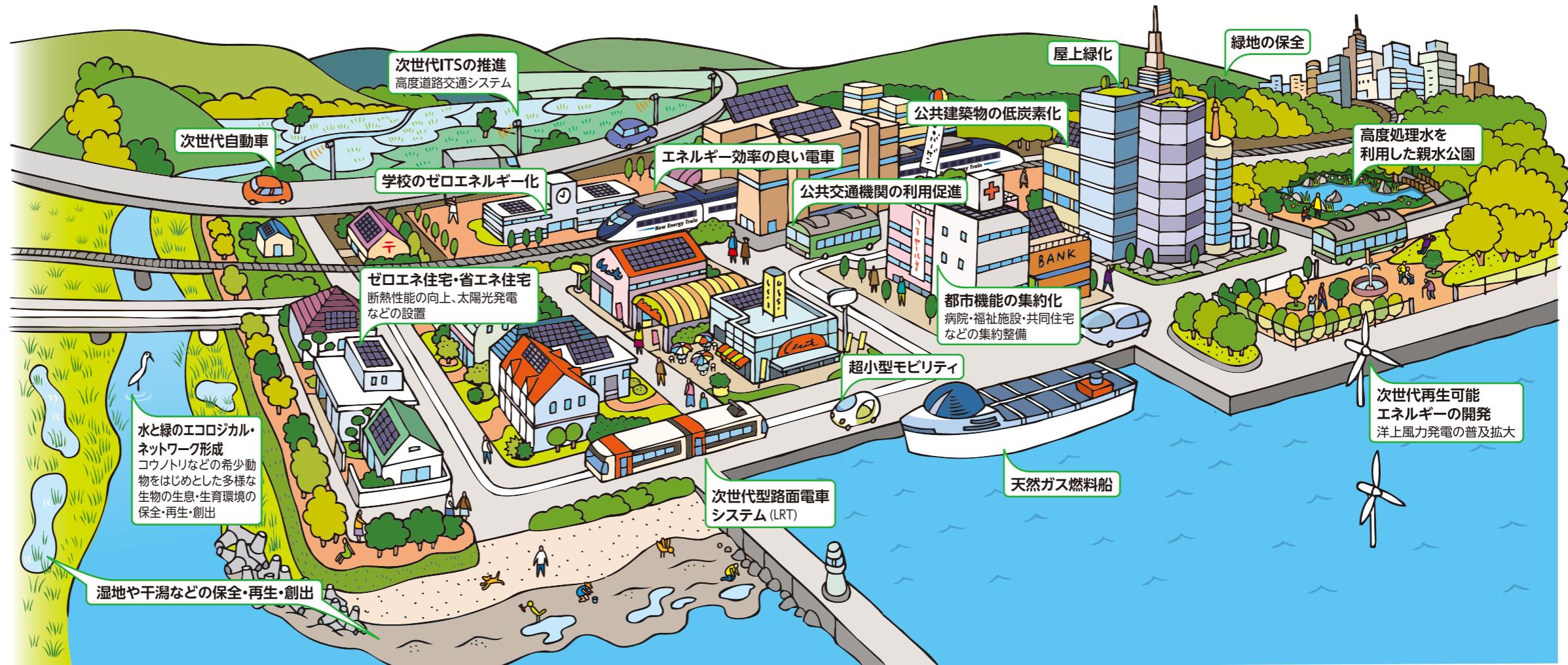
総合政策局 環境政策課
課長補佐
大坪弘敏

*1 温室効果ガス：二酸化炭素やメタンなど地球温暖化の原因となる気体。
*2 モーダルシフト：自動車や航空機による輸送を鉄道や船舶による輸送で代替すること。

記事参照 『国土交通』バックナンバーもご覧ください。

<http://www.mlit.go.jp/page/kouhoushi.html>

- A…109号 特集「人と生物を惹きつける公園の魅力」
- B…100号 特集「エコでコンパクトなまちへ」
- C…103号 特集「交通ルネッサンスはじまる」
- D…105号 特集「鉄道先進国・日本」
- E…118号 特集「海洋フロンティアへの挑戦」
- F…113号 現場力「治水と自然再生の両立 コウノトリ舞う円山川へ」
- G…104号 特集「雨の国・日本に暮らす」





UDCKセンター長の出口敦氏(左から3人目)、副センター長の三牧浩也氏(左)を始めとするスタッフの皆さん。そして、三井不動産(株)の中田聖志氏(右から3人目)と、柏市主幹の松本昌章氏(右)。



ITSスポット対応カーナビとの間で広域な道路情報などさまざまなサービスを提供する「ITSスポット」。



マンションのインターホンに組み込まれた「CO₂見える化モニター」で楽しみながらエコ化。家庭内で削減した二酸化炭素排出量を「環境価値」ポイントとして柏の葉街エコ推進協議会が認証し「ホワイト証書」を発行。ポイントは地域の商業施設で利用できる。



柏の葉スマートシティプロジェクトの実証実験として、3カ所に設置された「マルチ交通シェアリング」のポート。

柏の葉スマートシティプロジェクトの実証実験として、3カ所に設置された「マルチ交通シェアリング」のポート。

柏の葉スマートシティプロジェクトの実証実験として、3カ所に設置された「マルチ交通シェアリング」のポート。

柏の葉スマートシティプロジェクトの実証実験として、3カ所に設置された「マルチ交通シェアリング」のポート。

人をつなぐエリアマネジメント

柏の葉エリアでは、市民がさまざまな機会でまちづくりに参加できるよう、多くの活動が行われています。UDCK の専任スタッフが個々の取り組みを支

持つことで、市民がさまざまな機会でまちづくりに参加できるよう、多くの活動が行われています。UDCK の専任スタッフが個々の取り組みを支

持つことで、市民がさまざまな機会でまちづくりに参加できるよう、多くの活動が行われています。UDCK の専任スタッフが個々の取り組みを支

持つことで、市民がさまざまな機会でまちづくりに参加できるよう、多くの活動が行われています。UDCK の専任スタッフが個々の取り組みを支

進むスマートシティ計画

柏の葉スマートシティプロジェクトの実証実験として、3カ所に設置された「マルチ交通シェアリング」のポート。

家庭レベルでは国土交通省の先導的

都市環境形成促進事業を活用し、駅

周辺の分譲マンションに家庭内の電気・

ガス・水道の消費量を簡単にチェックで

きる「CO₂見える化モニター」を設置。各

家庭から毎日どれだけ二酸化炭素が

排出されているかに気づいてもらい、暮

らしの省エネ化、低炭素化への意識を

高めてもらおうという試みです。

交通面では、ITS(高度道路交通

システム)の実証実験も始まっていま

す。最先端の情報通信や制御技術で人

と道路と車両を情報ネットワーク化す

ることにより、渋滞事故・大気汚染な

どの問題を解決し、安全・快適で環境に

優しい交通システムの構築を目指して

います。国土交通省や民間企業などに

よる柏ITS推進協議会が連携して

研究開発を進めています。

柏の葉スマートシティプロジェクト

の実証実験として、3カ所に設置さ

れた「マルチ交通シェアリング」の

ポート。

柏の葉スマートシティプロジェクト

の実証実験として、3カ所に設置さ

れた「マルチ交通シェアリング」の

ポート。

柏の葉スマートシティプロジェクト

の実証実験として、3カ所に設置さ

れた「マルチ交通シェアリング」の

ポート。



インターネット放送で地域情報を発信する「柏の葉コミュニティホウソウ局K-stream」。参加者は世代や性別を超えて、幅広く各自得意分野の番組を持っている。

柏の葉スマートシティプロジェクトの実証実験として、3カ所に設置された「マルチ交通シェアリング」の実証実験などを通じて、二酸化炭素排出量や消費エネルギーの削減を目指しています。

また、電気自動車や電動バイク、自転車などの乗り物をその場で選んでレンタルし、目的地に近いポート(駐車場)で返却できるエリア交通システム「マルチ交通シェアリング」の実証実験などを通じて、二酸化炭素排出量や消費エネルギーの削減を目指しています。

さらに地域の交流・学習プロジェクト「まちのクラブ活動」や「まちづくりスクール」などを通して、まちづくりの担い手の発掘、育成も推進中です。

さらに地域の交流・学習プロジェクト「まちづくりは、都市という器をつくつて終わりではありません。そこに集う人々が安心安全に、そして楽しく過ごせる街として続していく。それこそが、次世代の環境都市が目指す道だと考

えていました」(三牧氏)

※柏の葉スマートシティ…地域ぐるみで環境、エネルギー、超高齢化などの課題を解決していく街。

柏の葉国際キャンパスタウン

環境と暮らしを「かしこく」つなぐ柏の葉

秋葉原から30分、つくばエクスプレス「柏の葉キャンバス駅」を中心に広がる千葉県柏市の北部にある柏の葉エリア。この街では、公共主導・ハード優先ではなく、市民、大学、企業及び行政などがそれぞれの立場で手を取り合い、「柏の葉らしさ」を生み出す新しいまちづくりが進められています。



利根川南側に位置する柏の葉エリア。



柏の葉キャンパスタウンの一角にある柏の葉公園。「柏の葉セグウェイクラブ」は、まちのクラブ活動の一つで、将来はパトロールなどに活用し、安全で安心なまちづくりに役立てていきたいと語る(柏の葉セグウェイクラブ)。

UDCKは柏市、東京大学、千葉大学、三井不動産(株)、田中地域ふるさと協議会(地域団体)など7つの構成団体で共同運営され、①まちづくりに関する調査・研究提案を行うシンクタンク、②各団体をつなぎ事業化を図るコーディネーター、③取り組みを市民や社会に伝える情報発信という3つの機能を持っています。

UDCKの組織や施設を通じて、地域の皆さん一人ひとりがまちづくりに『自分も参加している』という意識を持ついただきたい。当事者意識、参加意識が柏の葉エリアを育む原動力になります」(三牧氏)

柏の葉エリアには、大学や国の研究機関などが数多く立地しています。緑豊かな自然環境にも恵まれたこの地域に健康長寿で未来型の都市経営を行う産業や文化的な価値を創造するまちづくりを目指しています」(UDCKセンター長・三牧浩也氏)。

その大きな特徴が『公・民・学の連携』です。市民や行政・企業と、最先端の大学や公的研究機関が多面的に連携・交流する中で、人にも環境にも優しく、新たな産業や文化的な価値を創造するまちづくりを目指しています」(UDCKセンター長・三牧浩也氏)。

柏の葉エリアには、大学や国の研究機関などが数多く立地しています。緑豊かな自然環境にも恵まれたこの地域に健康長寿で未来型の都市経営を行う産業や文化的な価値を創造するまちづくりを目指しています」(UDCKセンター長・三牧浩也氏)。

柏の葉エリアには、大学や国の研究機関などが数多く立地しています。緑豊かな自然環境にも恵まれたこの地域に健康長寿で未来型の都市経営を行いう環境共生都市をつくるために策定されたのが「柏の葉国際キャンパスタウン構想」です。

公・民・学連携の取り組み

次世代モビリティ

人と車が実現する新たなライフスタイル

人々の豊かな暮らしと現在の経済活動を活性化しながら行う、省エネや二酸化炭素の削減。そこから生まれる、人と自動車とがコミュニケーションできるまち—。次世代モビリティは、私たちのライフスタイルをより快適に変えていきます。

低炭素の移動と新たなライフスタイル
中長期的に自動車の二酸化炭素排出量削減を実現するには、税制や燃費

一方で、税制や燃費規制などにより、世界の共通基盤技術を誇り、「次世代のグローバルスタンダード」を次々生み出す市場環境を作っていくと考えています。

先進国は2050年までに温室効果ガスの80%削減が求められています。多様な価値観や生き方を尊重する「QOL・暮らしの質」の向上や経済の活性化と抜本的な二酸化炭素排出量削減の両立こそ、国土交通省が掲げる目標です。

* グローバルスタンダード…世界の市場の主流となる技術など。
※ グローバルスタンダード…世界の市場の主流となる



エコカー減税による技術革新の加速

電気自動車	クリーンディーゼル車
日産 リーフ	マツダ CX-5
世界最先端の電気自動車、ディーゼル技術	



世界の先駆けとなる新たなエコカー技術が続々と投入

都市機能の集約促進

「エコまち法」でコンパクトな都市に

「都市の低炭素化の促進に関する法律(略称:エコまち法)」が平成24年12月に施行されました。市町村の創意工夫を生かした低炭素まちづくりを、国土交通省は支援しています。

少子高齢化社会の到来により、高齢者の自立した生活、子育て世帯の安心安全な暮らしを支える環境の整備が急務となっています。厳しい財政状況の中、人口密度を高め、行政コストの効率化を図ることも求められています。また、地球温暖化など環境問題として、都市の二酸化炭素排出量削減も大きな課題です。

これらの課題を解決するため、今後のまちづくりの方向性として「コンパクトなまちづくり」を進めていくことが必要です。すなわち、医療機関、福祉施設、商業施設など日常生活に必要なまちの機能を住まいの近くに集約させ、車に過度に頼ることなく公共交通を利用することで誰もが暮らしやすいまちづくりを行っていきます。

平成24年12月4日施行の「エコまち法」は、市町村が住民の皆様や民間事業者とともに、「コンパクトなまちづくり」に取り組んでいたことを支援する法律で、次の2つの制度を大きな柱としています。

低炭素建築物の認定

地方公共団体が、省エネルギー性能などの「低炭素化を促進するための基準」に適合する建築物を認定し、税制や容積率についての特例により、その普及を推進する制度です。



都市局 都市計画課
企画専門官
筒井祐治

市町村が、創意工夫をこらした「低炭素まちづくり計画(エコまち計画)」を作成し、行政、市民、民間事業者が連携して計画に基づくまちづくりを行う制度です。この計画に記載された取り組みに対し、さまざまな規制が緩和され、国も財政的な支援を行います。

「エコまち計画」には、①～⑤など幅広い分野の多様な施策を記載することができます。

市町村が、創意工夫をこらした「低炭素まちづくり計画(エコまち計画)」を作成し、行政、市民、民間事業者が連携して計画に基づくまちづくりを行う制度です。この計画に記載された取り組みに対し、さまざまな規制が緩和され、国も財政的な支援を行います。

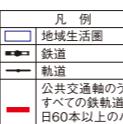
「エコまち計画」には、①～⑤など幅広い分野の多様な施策を記載することができます。

「エコまち法」とは

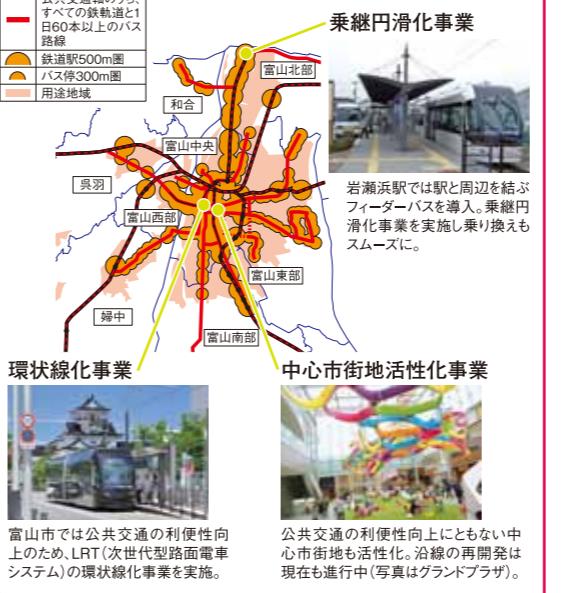
エコまち計画の作成

TOPIC

富山市が進めるコンパクトなまちづくり



富山市では、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を理念とした取り組みを進めています。



富山市では公共交通の利便性向上のため、LRT(次世代型路面電車システム)の環状線化事業を実施。

富山市では公共交通の利便性向上にともない中心市街地も活性化。沿線の再開発は現在も進行中(写真はグランドプラザ)。

都市の低炭素化の促進に関する基本的な方針

認定低炭素建築物
(所管行政庁が認定)

○市街化区域等の中で、低炭素化を促進するための基準に適合する建築物を認定する制度

低炭素まちづくり計画
(市町村が作成)

○市街化区域等の中で、都市の低炭素化に関する施策を総合的に推進するための計画を策定できる制度

【低炭素まちづくり計画への記載事項】

○計画の区域 ○計画の目標
○目標達成に必要な事項
○達成状況の評価に関する事項
○計画期間

【関連計画】
適合したものとさせること

地方公共団体実行計画
(地球温暖化対策の推進に関する法律)

都市計画区域マスタープラン(都道府県)、市町村マスタープラン(市町村)※

特例措置

○認定低炭素住宅に係る所得税などの軽減
○低炭素化に資する設備は容積率に含めない
(延床面積の1/20を上限)

法律上の特例措置

○駐車施設の集約設置を可能に
○公共交通の利用促進・物流事業者による共同運輸の実施
○緑地の保全・緑化の促進、樹林地などの管理協定制度の拡充
○民間業者が下水道の排水施設から下水を取水することが可能に
○都市公園、港湾隣接地域での占用許可など

交付金などによる支援措置

○集約都市開発支援事業の創設など

低炭素まちづくり協議会設置

※都市計画法に基づいて、市民に都市の将来像を分かりやすく示すために作成される計画



境税関支署庁舎は、この境港のほど近くに位置する。中央の橋は境港市と島根県松江市を結ぶ境水道大橋。全長約700mで、まちのシンボル。

水木しげるロードには、鬼太郎、ねずみ男などキャラクターの像がズラリと並ぶ。

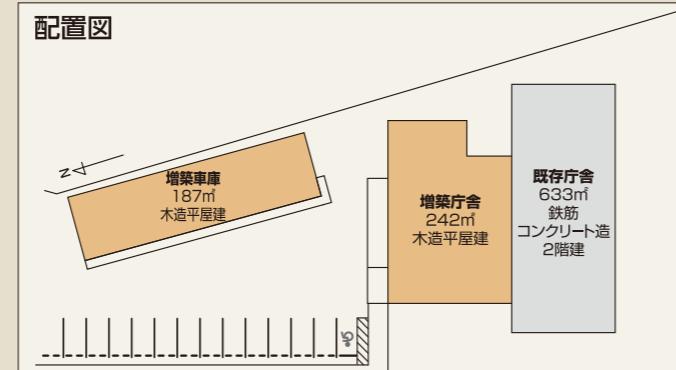
既存庁舎は、骨組みなど軸体のみの状態にした上で、工事に取りかかった。



国土交通省 中国地方整備局
岡山營繕事務所 技術課
技術係長
津島 研吾

今回の工事で初めて木造建築物の工事監理を担当。「木材は、今まで扱ってきたコンクリートなどとは全く違う材料であるため流通状況や性能の確保など、工事途中での確認や調整に苦心しました。木材の知識や経験の必要性を強く感じました」

配置図



既存庁舎の前面(北側)に木造の新庁舎を増築。木造車庫は、敷地の形状に合わせ、斜めに向かい合うように配した。

“鬼太郎のまち”で庁舎再生

鳥取県北西部の弓ヶ浜半島先端に位置する境港市。三方を海に囲まれた豊かな漁港、そして中国・韓国などの航路も充実した貿易港です。また、「ゲゲゲの鬼太郎」の作者・水木しげる氏ゆかりの地としても知られ、駅周辺にある水木しげるロードは、大勢の観光客を楽しませています。

財務省神戸税関境税関支署は、この港に近接した境港港湾合同庁舎の一部などで、麻薬・拳銃などの水際での密輸取り締まり、関税の徴収や貿易の円滑化などの業務を行っています。しかし、庁舎が手狭となり、行政サービスに支障をきたす場合もあって、移転の候補地を探していたところ、使用されていない旧境港公共職業安定所の建物が近隣にあることがわかりました。経年変化は生じているものの、改修により再利用が可能な国有財産ということで移転が決まりました。この整備計画を中国地方整備局營繕部が行い、工事監理を岡山營繕事務所が行っています。主な工事内容は、「庁舎の増築」「車庫の新築」「既存庁舎の模様替え」で、各所を木造化するというものです。

なぜ木造化なのか――

公共建築物は、戦後から原則として不燃構造とすることに重点を置いてきました。しかし、国内の人工林が利用に適した時期を迎え、伐採の必要に迫られています。さらに森林から伐り出された木材は、吸収したCO₂を木材内部に固定し、建築資材となつても大気中に排出されることがないため、環境負荷の低減に繋がります。そこで平成22年10月に農林水産大臣・国土交通大臣が「公共建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」を告示。国土交通省では平成23年5月に「公共建築物における木材の利用の促進のための計画」を定め、公共建築物において、可能な限り木造化、または内装などの木質化を図る、という方針を出しました。日本の森林資源である木材を有効活用することで、公共建築物として低炭素社会に貢献するためです。

この流れを受けて、中国地方整備局として木造計画・設計基準に基づき、整備している第1号の施設が境税関支署です。

設計は、平成23年6月から開始しました。まず、増築庁舎と新築車庫の主要構造部となる柱や梁を木造とすること。そして、エントランスなどの人に触れる機会が多い部分には、内装仕上げに木材を使用し、来訪者に親しみや温かみを感じていただく施設となるよう、設計上考慮しています。工事は平成24年2月から開始しました。

中国地方整備局岡山營繕事務所

公共建築物を木造化し、 低炭素社会へ貢献する

国の施設を整備する国土交通省では、地球温暖化防止に貢献するため、

率先した低炭素化を目指し、公共建築物の木造化に取り組んでいます。

鳥取県境港市では、中国地方整備局岡山營繕事務所が境税関支署庁舎の移転に際し、木造化を実施。その先導的な取り組みをご紹介します。



業務密着ルポシリーズ
現力
場
げんぱりょく

File 20

木造で新築された車庫内部。天井・壁面は格子状に木材が組まれ、補強も万全。この後、表面には耐火ボードを設置。



現場見学会でやってきた米子工業高校の生徒たち。授業でも見ることの少ない木造の現場を体験できる貴重な機会となった。



工事を行った中国地方整備局の職員と現場スタッフ。



上段／車庫の屋根を支える柱・梁には、強度の高い岡山県産の欧洲赤松を使用。右／木材に取り付けた車庫シャッター用の金属製レール。下段／接合部の正確さを確認するため、事前に製作した原寸サンプル。



事務室内壁の腰高程度まで張る木材(杉板)。施工前に丹念なチェックを行う。



増築庁舎にあるエントランスは一般の方も利用されるため、木造化と共に、採光部を大きくし、明るい開放的な印象にリニューアル。



エントランスと事務室を隔てる内窓。内部の補強と共に、表面も木材を使用。

“木が効く”公共建築物、 増加中!

他エリアでも、公共建築物の木造化を進めています。茨城県の植物検疫施設「横浜植物防疫所つくば圃場」は、法律施行後に国土交通省が整備し完成した“木造事務庁舎”的第1号。内装木質化の他、外壁にも敷地内の樹木を加工して張るというユニークな試みを実施しました。また、京都府の「京都御苑」では休憩所を木造で新築。温かみがある公園内の憩いの場として親しまれています。



横浜植物防疫所つくば圃場



京都御苑児童公園休憩所

だけ地上で組み立てる「地組」という工法も採用。組み立てられた部材をクレーンで吊り、設置することで、作業の効率化や高所での作業をなるべく回避するための安全対策も兼ねています。これらの丹念な作業を経て、平成25年1月末に工事を完了しました。

木造化——今後の展望

今回のプロジェクトでは、木造建築の施工過程を見せる現場見学会も重要な事項として行つきました。若い人が建設業に興味を持ち、その仕事に携わりたいと思うきっかけにしていたぐためです。昨年9月中旬には、地元の米子工業高校の1年生生徒、先生を合わせ45人に見学会を実施。授業内容に合わせた木造建築の施工状況を実際に見ていただきました。

だけ地上で組み立てる「地組」という工法では延べ面積150m²を超える車庫の場合、準耐火建築物となり、燃えにくい構造にする必要があります。木質化とはいっても燃えやすい木材を壁や天井などの表面に大々的に使用することはできません。そこで万が一、内装材や骨組みの一部が燃えても自立できる構造を取り入れ、屋根を支える多岐にわたります。

新築する木造車庫は187m²。建築基準法では延べ面積150m²を超える車庫の場合、準耐火建築物となり、燃えにくい構造にする必要があります。木質化とはいっても燃えやすい木材を壁や天井などの表面に大々的に使用することはできません。そこで万が一、内装材や骨組みの一部が燃えても自立できる構造を取り入れ、屋根を支える多岐にわたります。

今回の工事では、地域の木材と技術を活用して地元に貢献するため、主に近県の木材を使用しています。例えば、柱や梁は岡山県産の欧洲赤松、土台には地元鳥取県産の桧、内装材にも同様に鳥取県産の杉や桧など、建物の主要部分はすべて国内産材です。

新庁舎は延べ面積633m²の鉄筋コンクリート造の既存庁舎と、増築する242m²の木造庁舎からなります。

鉄筋コンクリート造の既存庁舎は、いたんコンクリートの躯体のみにして、内装の木質化を可能な範囲で行いました。内壁下地にも木材を使用し多くの人の目に触れる事務室の壁も床から1.2mまでを板張りとして木材を活用。内側の窓枠にも断熱性の高い木の建具をつらえています。既存庁舎の工具をつらえています。既存庁舎の内装はこの他、外壁改修、屋上防水改修、内部模様替え、耐震改修、太陽光発電設備設置、アスベスト除去作業など多岐にわたります。

新築する木造車庫は187m²。建築基準法では延べ面積150m²を超える車庫の場合、準耐火建築物となり、燃えにくい構造にする必要があります。木質化とはいっても燃えやすい木材を壁や天井などの表面に大々的に使用することはできません。そこで万が一、内装材や骨組みの一部が燃えても自立できる構造を取り入れ、屋根を支える多岐にわたります。

新築する木造車庫は187m



MLIT CAFE UP

全国各地で働く国土交通省職員が地元を紹介します。

「四国遍路」とは、讃岐(香川県)に生まれた空海(後の弘法大師、774年～835年)が修行を行ったと伝えられる八十八ヶ所の寺々(札所)を大師の足跡を訪ねて巡礼することをいいます。その起源は平安時代の修行僧ともいわれており、室町時代から江戸時代初めにかけて、一般庶民にも広がり、現在に至るまで絶えことなく続いている。徳島県の1番札所霊山寺から香川県の88番札所大窪寺まで四国遍路の全行程は、約1,400kmに及び、毎年多くの方々が訪れています。

昨年はうるう年の「逆打ち」の年にあたり、88番札所大窪寺から反時計回りに霊場を巡り結願を目指す巡礼者が増えました。「逆打ち」すれば、霊場を巡っているとされる弘法大師と出会うことができ、よりご利益があるとか、道に迷うなど苦労が多いため「順打ち」3回分のご利益が得られるとも伝えられています。



Reporter
四国運輸局
企画観光部次長
石橋 通

四国遍路には、決まったルールはありません。服装も手段も方法も自由です。目的も先祖供養や健康祈願、自分探しの旅と実にいろいろです。最近では、宗教的な目的のほかに、健康増進やアウトドア、パワースポット巡りとしても注目を集めています。また、都会の喧騒や仕事のストレスを忘れる癒しの旅として女性にも人気です。そんな閑かなブームが続く、優しい時間に満ち溢れた四国遍路の旅を体験してみてはいかがでしょうか。

なお、四国運輸局では、公共交通の利用促進や観光客の来訪促進を通じた四国の活性化に向けた取り組みとして、四国八十八ヶ所巡りの旅案内となる『四国88NAVI』を作成しています。列車や路線バス、観光情報などを掲載したこの冊子は、四国四県の東京事務所やアンテナショップ、四国各県の空港や主要鉄道駅などに広く配布していますので、是非、ご活用下さい。



『四国88NAVI』ホームページ <http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/soshiki/kikaku/88navi.html>

〈取材協力者〉



藤田奈織美さん

三豊市政策部産業政策課。栗島でお会いする島民の皆さんに挨拶し、ふれあいを大切にする。島の魅力をとても理解する一人。
<http://www.city.miyoto.lg.jp>



森本哲司さん(右)、臼山勇さん

香川県政策部地域づくり推進室。うどん県副知事の要潤さん(ポスター)は、三豊市出身、三豊ふるさと大使。
<http://www.my-kagawa.jp>



「アオリイカ」(森田さん作)



海から集めてきた珍しいモノが作品のテーマとなる。



森田洋美さん

芸術家。埼玉県出身。夫は建築設計士(兼釣り人)。愛猫「タマス」(たます)が作品のモデル。

佐々木さんは、4年半の米国滞在から帰国後、「日本は島国だった」ことに気づき、栗島芸術家村に応募。瀬戸内島と決めたのは、「瀬戸内国際芸術祭2013」に向けた現地視察会に訪れた際、島の魅力を感じたからだ。

栗島の草花を板ガラスの間に挟んで窯で焼成することで残る真っ白な灰が作りあげる植物模様のガラスを、島の家に融合させた作品として展示する予定。「制作に必要な野に咲く植物を島の人と一緒に探す間にコミュニケーションができ、そんな中で今後のことを考えています。島の人達から野菜やみかんも頂きます」と、島民との交流をとても嬉しそうに話してくれた。

栗島芸術家村から島に移住したアーティスト

2011年秋に栗島芸術家村に入り、4ヶ月間滞在した森田さんは、翌2012年1月に栗島に移住した芸術家である。

「4ヶ月間の島民とのふれあいで、初めて教わったことが沢山あった。そし

●塩飽諸島などの離島支援について

○国庫補助航路の指定

国土交通省では、栗島を含む塩飽諸島の4航路について国庫補助航路に指定し、地域公共交通の確保、維持を図っています。

○全国の島々が集まる祭典「アイランダー2012」

国土交通省は、全国の島が一体となって島の持つ自然歴史・文化・生活などのすばらしさをアピールし、交流人口の拡大、離島地域の活性化に資することを目的とした「離島と都市との交流事業」を毎年、東京で開催しています。なお、栗島からも参加いただいています。

多くの個性的なアーティストが集う栗島には、言葉では言い表せない魅力がある。その魅力を多くのアーティストが様々ななかたちで表現しようとする。島がそうさせるのかもしれない。風景も人も優しく、ゆっくり、ゆったり、のんびりと、日ごろの自分をリセットできる自然豊かな癒しの島。本当の魅力は、訪れた者が肌で感じたときに解るのかもしれない。

栗島の本当の魅力とは！

そんな森田さんの作品「アオリイカ」を、宿泊施設「ル・ポール栗島」で鑑賞することができます。

て、人の温かさを強く感じた。都会の雰踏がイヤで、もともと島に住みたいと思っていた。島の生活はとても快適。今まで描いた作品は、空間的で色も変わったと言われます。これからは、海を描きたい」

90年の歴史を閉じた海員学校が、栗島の海洋の歴史を伝える

90年の歴史を閉じた海員学校が、栗島の海洋の歴史を伝える

栗島は瀬戸内海の中央に位置し、天然の良港であったため、江戸時代から日本各地との交易で活躍した北前船で繁栄した。しかし、近代化がうまくいかず海運業は衰退。船で生計を立てていた島民の将来を考え、明治30年に日本初の海員養成校「栗島海員補習学校」が村立て設立された。

その後、郡立、県立の時代を経て、昭

和15年に国立の「商船学校」、昭和27年に「栗島海員学校」(旧運輸省所管)に改称され、日本の海運業界に多くの船員を送り出してきた。しかし、海運不況や外国人船員の増加で、昭和62年廃校となり、90年余りの長い歴史に幕を閉じた。

その跡地は、栗島海洋記念公園として生まれ変わり、島のシンボルになっている。



檜垣忠則さん(栗島海洋記念館)
海員学校第9期卒業生。元船員。
現在、栗島の海友会員として、島の歴史を伝える。



『四国88NAVI』ホームページ <http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/soshiki/kikaku/88navi.html>

大地を見つめる国土地理院



マップ博士

皆さんは携帯電話や雑誌などで手軽に地図を見ることができる。地図を片手に山歩きをしたり、ドライブをする時に目的地までの距離や道順・位置関係などを調べることも当たり前にできることじゃ。

しかし、開発途上国では、地図が整備されていなかったり、あっても古く正確な地図でないことが多いんじゃ。その上、軍事上秘密扱いされ、国民生活や都市計画などで自由に地図を利用することができないため、自由に使える地図(地理空間情報)の整備とそれを作る各国の国家地図作成機関(NGIA:地理空間情報当局)の技術者養成や体制の強化が必要なんじゃ。

国土地理院では、1963年から現在まで毎年、測量と地図作成技術の習得と組織体制作りのため、独立行政法人国際協力機構(JICA)を通じて主に東南アジア諸国やアフリカなどのNGIAから研修員を受け入れています。研修員は、自国の測量・地図行政を改善させるため、地図と測量に関する専門性の高い講義、測量機器やコンピュータを用いた実習などにより専門知識と最新測量技術の習得やスキルアップを図っています。また、JICAを通じて国土地理院職員を測量・地図分野の専門家として開発途上国に派遣し、行政的な視点から技術移転や技術協力プロジェクトの支援をしています。



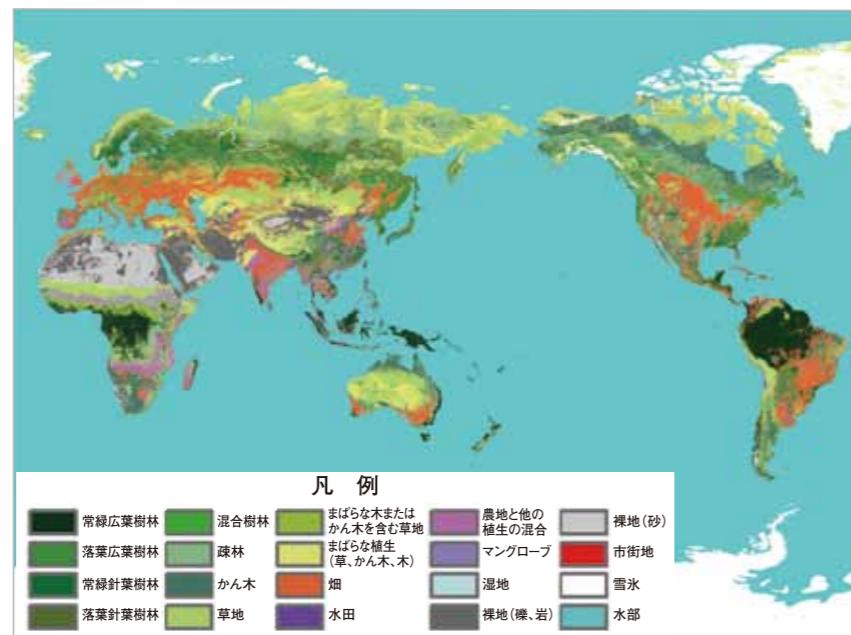
JICA集団研修の風景。



国土地理院の専門家による現場指導(バングラデシュ人民共和国)。



地球地図ってすごい地図だね!



全地球の土地被覆(森林・草地・湿地・畠・市街地・水面など)、海岸線、河川、湖沼、標高、交通網、行政界(国境・行政区画)、人口集中域、土地利用、樹木被覆率などを網羅して掲載。
出典:国土地理院、千葉大学、協働機関

教えて国土交通省!

国土交通省に寄せられた、普段の生活で感じたふとした疑問や質問などを紹介するコーナーです。



「雪や氷を利用したエネルギーとは…?」

「雪氷冷熱エネルギー」という言葉を耳にしました。どんなエネルギーですか?(北海道・中1)

A 雪氷冷熱エネルギーとは、冬季に降り積もった雪や、寒冷な外気を利用して作る氷を冷熱源とするエネルギーのことです。

北海道などの北国では毎年たくさんの雪が積もりますが、交通障害を引き起こすなど、冬の生活にとって厄介な一面もあります。そこで、豊富にある雪氷の持つ自然エネルギーを貴重な冷熱源として活用する取り組みが進められています。

例えば、冬季に道路や空港滑走路などから除雪した雪を保存し、夏季にオフィスなどの冷房として利用したり、お米をはじめとする農水産品を夏季まで低温貯蔵することなどに使っています。

自然の雪や氷は、石油や石炭などの化石エネルギーに比べ、二酸化炭素を排出しない地球環境に優しいエネルギーで、資源の乏しい日本にとって貴重な天からの贈り物です。

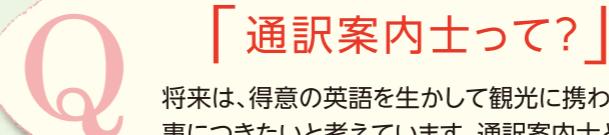
国土交通省では、雪国が持つ豊富な雪や氷の冷熱エネルギーを利用した冷房システムや、雪氷を利用して農水産品の出荷を調整することで、収穫期に集中する輸送を1年通して安定的に行い、物流コストの低減に結びつけるような物流システムなどの技術開発・普及を進めています。

国土交通省における関連する取り組み事例はこちら ▶ <http://www.mlit.go.jp/kanribu/chosei/yusou.html>



冬季の自然冷気によりできた氷を夏季まで保存し冷房用に使用。

観光庁の担当者に聞きました。



将来は、得意の英語を生かして観光に携わる仕事をつきたいと考えています。通訳案内士とは、どんな職業か教えてください。(福岡県・高3)

A 通訳案内士は、旅行会社や企業からの依頼を受け、海外から来日する旅行者に付き添い、全国各地の観光案内を行います。その他、企業の商談や会議通訳をはじめとする産業通訳や、国際通貨基金・世界銀行年次総会をはじめとする国際会議でのイベント通訳や案内など幅広く活躍しています。

「民間外交官」として、訪日外国人旅行者に日本の魅力を存分に伝え、日本のファンを増やすという大きな役割を担っているため、語学力だけではなく日本の地理、歴史、産業、経済、政治及び文化など幅広い知識が必要となります。

通訳案内士になるためには、通訳案内士試験に合格し、都道府県知事の登録を受けなければなりません。試験は、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語、韓国語及びタイ語の10カ国語で行われている国家試験で、年齢、性別、学歴、国籍などに関係なく受験できます。

なお、現在、外国語筆記試験は実用英語技能検定の1級合格者のみ免除対象となっていますが、平成25年度より中国語検定試験の1級合格者と「ハングル」能力検定試験の1級合格者を免除対象者に追加しました。

通訳案内士 ▶

<http://www.mlit.go.jp/kankochō/shisaku/kokusai/tsuyaku.html>

試験免除者の拡大 ▶

http://www.mlit.go.jp/kankochō/news05_000135.html



観光地で外国人観光客を観光案内する通訳案内士。

MLIT NAVI information

01

雪でお困りのことはありませんか? 地域除雪活動☆実践ガイドブック をご活用ください。

近年、過疎化や高齢化の進展などにより地域の雪かきの担い手が不足する中、平成22、23年度は2年連続の大雪となり、屋根の雪下ろしなど除雪作業中に多くの事故が発生しました。これを踏まえ「雪国の安全安心な暮らし確保のための克雪体制推進調査」の中間とりまとめとして、町内会や自主防災会のリーダー向けに「地域除雪活動実践ガイドブック(暫定版)」を作成しました。

除雪活動の実践を通じて、地域の現状を知ることは地域の将来を考えることにもつながります。住民同士のつながりが強くなると雪害以外のあらゆる自然災害に対しても強い地域となります。地域の雪問題をみんなで考え、力をあわせて解決し、「安全安心で暮らしやすい地域づくり」のきっかけをしていただきたいと思います。

検索 地域除雪活動実践ガイドブック

お問い合わせ 国土交通省国土政策局 地方振興課
TEL:03-5253-8111(内線29-562、29-563)
FAX:03-5253-1588

02

エンジンオイルの劣化による 車両火災防止対策

～一定期間又は走行距離ごとに交換しましょう～

エンジンオイルの適切なメンテナンスを怠っているとオイルの劣化などによる潤滑不良に至り、エンジンが破損し、最悪の場合、車両火災が発生することが確認されています。エンジンオイルは、長期間交換しない場合やエンジンが温まらない短時間の使用でも劣化するため、量と汚れについて日常点検を実施しましょう。

また、一定の期間又は走行距離ごとにエンジンオイルを交換することが大切です。



エンジンオイルの点検を。

検索 エンジンオイルの劣化による車両火災防止

お問い合わせ 国土交通省自動車局整備課
TEL:03-5253-8111(内線42412、42415)
FAX:03-5253-1639

詳しい情報はこちらから

01 地域除雪活動☆実践ガイドブック

http://www.mlit.go.jp/report/press/kokudoseisaku04_hh_000045.html

02 エンジンオイルの劣化による車両火災防止

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidoshao9_hh_000063.html

03 今しかできない旅がある

http://www.mlit.go.jp/kankochō/news05_000133.html



☆実践アドバイス

- 安全こそ第一!** 雪による事故の4分の3は除雪作業中の事故で、一人で作業していたために亡くなつたと考えられるケースも少なくありません。声かけや見守りを行うことが事故防止になります。
- 行政ともつながっておこう!** 各地の事例をみると、除雪機械の提供・貸与、除雪機械の燃料費・作業員の謝礼・保険代負担など行政からのサポートを得ているケースもあります。
- 必要なら外部の力を!** 住民の方の話し合いのプロセスが重要ですが、大学やNPO法人など地域住民以外の人の参画により、客観的な立場から課題解決方法を見つけやすくなることもあります。



日常生活サービス機能を集約した「小さな拠点」
国土交通省は、車が運転できない高齢の方でも、一度で用事を済ませることができます。歩くことができる、過疎地域などで「小さな拠点」づくりを推進しています。これは、徒歩で移動できる範囲に医療施設や食料品などを扱う商業施設、金融機関などの日常生活のサービス機能を集約することで、地域の生活や経済機能を維持していくことという考え方です。複数のサービス機能と交通手段を確保しやすい道の駅を活用した小さな拠点づくりが期待されています。

「田野駅屋」は、国道55号に面し、土佐くろしお鉄道「ごめん・なはり」線の田野駅に併設しています。周辺には、病院、薬局、消防署、銀行、スーパー、ホームセンターなどのさまざまな施設が並んでいます。また、温泉もあり、地域の方々と観光客を結ぶ拠点として人が集う憩いの場所となっています。

四国一小さな町、田野町がぎゅっと詰まつた道の駅が「田野駅屋」です。

地元の採れたて野菜や鮮魚をはじめ、オリジナルアイスクリーム、駅自慢のお総菜やお寿司、お弁当なども充実しています。

地域の観光情報発信基地になることを宣言し、専属スタッフがいる「情報発信コーナー」も設置されています。

03

～第1回観光庁長官賞～ 「今しかできない旅がある」 若者旅行を応援する取り組みを 募集しています!

近年、若者の旅行離れについてさまざまな指摘がなされています。旅は、自己を見つめ直し成長するきっかけとなり、地域の魅力に触れることで日本を愛する気持ちを培う機会にもなります。また、旅行市場拡大の観点から、若者の旅行振興は、地域や旅行業界にとって重要な取り組みです。

観光庁では、「今しかできない旅がある」をキャッチフレーズに「若者旅行を応援する観光庁長官賞」を設け、若者旅行振興に資する優良な取り組みを募集しています。

対象:若者の旅行振興に寄与した取り組みを行っている地方公共団体、NPO、企業、個人など。
応募締切:平成25年2月28日(木)まで
受賞者表彰:平成25年6月予定。

若旅

検索 今しかできない旅がある

お問い合わせ 観光庁観光地域振興部観光資源課
TEL:03-5253-8111(内線27823、27822)
FAX:03-5253-8930
E mail wakamono-ryoko@mlit.go.jp

ACCESS MAP



駅長に聞きました!



DATA

■高知県安芸郡田野町 1431-1
TEL:0887-32-1077
■営業時間／7:30～17:30
■定休日／年末年始
■<http://www.tanoekiya.com/index.php>



サービス機能を集約した小さな拠点 道の駅

南アルプスむら長谷
- 長野県伊那市 -



南アルプスの雄大な自然を満喫できます。近くの特別養護老人ホームや健康増進センターへご用の際に立ち寄る方も多いです。お目当ては絶品の焼きたてクロワッサン! 最近では予約が必要なほどの人気です。

<http://www.ina-city-kankou.co.jp/cms/modules/tinyd5/>

ハピネスふくえ
- 山口県萩市 -



中学校跡地を活用した“萩の福が栄える里”。季節の鉢植えを取りそろえた温室が特徴的。併設の公園では堅穴式住居やメダカ池、芝生広場もあり、近隣の保育園や小学校の子どもたちも遊びに来ます。ドライブの休憩にも最適!

http://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/dojroj/station.cgi-bin/station_info.pl?param=3508

